

【】 明治維新

【】 新政府の成立

[五箇条の御誓文]

[解答 1]五箇条の御誓文

[解説]

新政府は、日本を近代国家にするために、さまざまな改革を進めた。こうした改革と、それにともなう社会の動きを明治維新という。

新政府はまず、1868年(明治元年)、天皇が神にちかう形で五箇条の御誓文を出した。(人は狼狽(1868)御誓文)

[明治維新]
1868年(明治元年)
五箇条の御誓文
(世論の尊重, 外国との交際)

江戸→東京, 年号は明治

その内容は、「広ク会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ」(世論を大切にして、話し合いで政治をすすめる)、「智識ヲ世界ニ求メ, 大ニ皇基ヲ振起スベシ」(外国と広く交際し、文化を取り入れる)「旧来ノ陋習ヲ破リ, 天地ノ公道ニ基クベシ」(陋習とは「悪い習慣」という意味であるが、具体的には攘夷の風潮のことである)

続いて、江戸を東京と改称し年号を慶応から明治に改め、翌年東京を新しい首都にした。

[解答 2]① 世論を大切にして政治を進めること。 ② 外国に学んで国を発展させること。

[解答 3]明治維新

[版籍奉還・廃藩置県]

[解答 4]版籍奉還

[解説]

ヨーロッパ列強の植民地支配の動きに対抗して独立を維持するためには中央集権国家をつくる必要であった。政治の権限を集中させるために、太政官と呼ばれる制度がつけられたが、大名を領主とする藩はそのまま残っていたので、これだけでは不十分であった。

[中央集権国家づくり]
1869(明治2) 版籍奉還
1871(明治4) 廃藩置県

1869年(明治2年)、新政府は版籍奉還を実施し、大名のもっていた土地と人民を天皇に返させた。(版とは土地、籍とは人民のことで、奉還とは「返し奉る」という意味である。)しかし、この改革は形式的なものであり、旧藩主がそのまま藩政にあたることとしたため、政府が全国を直接治める中央集権にはほど遠いものであった。政府の収入も限られた直接の支配地からの年貢のみであった。(人はむくれる(1869)版籍奉還)

そこで、薩摩・長州・土佐の3藩から約1万人の兵を東京に集めて政府直属の御親兵として中央の軍事力を固めた。そして、西郷・大久保・木戸らがひそかに計画をすすめ、1871年(明治4年)、廃藩置県を断行した。これは、藩を廃して府・県をおき、中央から府知事・県令(のちの県知事)を派遣して治めさせ、もとの藩主に対しては東京に住むことを命じた。

これによって、国内の政治的統一が完成し、新しい中央集権国家の基礎ができた。(藩とはいわない(1871)県という)

[解答 5]藩が支配していた土地と人民を朝廷に返させたこと。

[解答 6]廃藩置県

[解答 7]中央集権国家をつくること。

[解答 8]県令

[解答 9]ア

[解答 10]江戸時代の藩は大名がそれぞれ独自に治めていたが、廃藩置県によって置かれた府県は中央から派遣された役人が治めるようになった。

[解答 11]ア

[解答 12]ウ

[解説]

ウの第1回帝国議会が開かれたのは1890年である。

[四民平等]

[解答 13]エ

[解説]

政府は^{しみんびやうとう}四民平等をとなえて、江戸時代の身分制度を改めた。四民平等は、天皇のもとに国民を一つにまとめて近代国家作りをすすめるために必要不可欠なものであった。その結果、国民はすべて名字を名のり、職業や居住地の自由を認められた。身分を象徴し

ていた「ちよんまげ」をやめることが許され、やがて禁止された。^{たいとう}帯刀も禁止された。

天皇の一族を^{こうぞく}皇族、もとの公家と大名を^{かみぞく}華族、武士を^{しぞく}士族とし、農民と町人を^{へいみん}平民とした。また、えた身分、ひにん身分などの呼び名を廃止し、身分・職業ともに平民と同じにする^{かいほうれい}解放令を出した。しかし、その後も差別は根強く続いた。

[四民平等]

皇族, 華族, 士族, 平民

解放令

【】明治維新の三大改革

[富国強兵]

[解答 14]富国強兵

[解説]

19世紀に^{おうべいれつきやう}欧米列強はアジアへ進出し、植民地化をすすめた。なかでも、イギリスは清とのアヘン戦争に勝利をおさめ、^{なんきん}南京条約を清との間に^{ていけつ}締結した。この情報は幕末当時の知識階層に大きな^{しやうげき}衝撃を与えた。

[富国強兵]のための三大改革

学制, 徴兵令, 地租改正

日本もこのままでは欧米列強の植民地になってしまうかもしれないという危機意識は、明治維新を主導した藩閥の指導者たちに共通したものであった。こうした、危機から脱却するために、欧米列強を手本として、経済を発展させるとともに軍備を強化する富国強兵をおしすすめることが当時の最大の国家目標となった。なかでも学制、徴兵令、地租改正の3つの改革は近代化の基礎となり、国民の生活に大きな影響をあたえた。

[学制の公布]

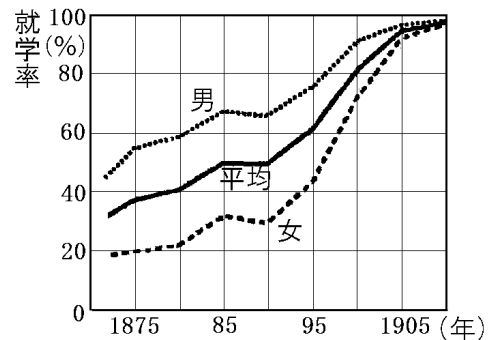
[解答 15] 学制

[解説]

1872年(明治5年)に、「必ず村に子どもを学校にやらない家がなく、家に学校に行かない人がいないようにしなければならない。…」という学制が公布され、小学校から大学までの学校制度が定められた。(いや何(1872)かと大変、学制公布)

特に初等教育が重視され、6歳以上の男女すべてに小学校教育を受けさせることとした。しかし、授業料や学校の建設・維持費などは地元の負担であった。右図のように、初めのうちは授業料を負担できないため、また、子どもは大切な働き手であったため、学校に行かせない親が多くいた。とくに女子の場合は、家事のにない手という考え方が強く、就学率は低かった。しかし、1905年ごろには、就学率は90%をこえるまでになった。このような急速に小学校教育が広まった原因の1つとして、江戸時代の寺子屋にみられる初等教育の普及があげられる。

[学制]
6歳以上の男女に小学校教育
授業料の負担・子どもは大切な働き手
最初、就学率は低かった



[解答 16](1) 学制 (2) 学校の授業料が負担であったため。(子どもは大切な働き手であったから。)

[解答 17] イ

[解答 18] エ

[解説]

ア：学制が公布されたのは1872年(明治5年)

イ：忠君愛國の道徳を柱とする教育勅語が出されたのは、大日本帝国憲法が発布された1889年(明治22年)の翌年。

ウ：津由梅子は、1871年(明治4年)の岩倉使節団とともに出発した。

エ：義務教育期間は、最初4年で、1907年(明治40年)に6年に延長された。義務教育期間が9年になったのは太平洋戦争後である。

[徴兵令]

[解答 19]徴兵令

[解説]

兵制については、それまでの武士にかわる全国統一の近代的な軍隊をつくるため、1873年(明治6年)に徴兵令を出し、満20歳になった男子は、士族、平民にかかわらず兵役の義務を負うこととした。
(いやな山村(1873)徴兵令)

[徴兵令]

満20歳になった男子

ただし、戸主とそのあとつぎ、官吏、学生、代人料270円を納めた者は徴兵を免除されたため、実際に兵役についたのは、ほとんどが平民の二男、三男たちであった。徴兵令は大きな負担を強いるものであったので、各地で徴兵反対の一揆が起こった。

[解答 20]イ

[解説]

アは誤り。「収穫高の3%」ではなく、「地価の3%」を現金で納めることになった。
ウは誤り。「飛脚制度」ではなく、「郵便制度」が整備された。
エは誤り。公家や大名を華族とし、武士を士族とした。

[地租改正]

[解答 21]地租改正

[解説]

国家としての機能を維持し、さらに富国強兵のための各種改革を進めていくためには巨額の財源が必要であった。しかし、明治初期の日本は貧しい農業国であり、政府が進める改革のための財源は、おもに農民が納める米であった(約7~8割)。しかし、江戸時代と同じ方式では、収穫高と米価が変動するために収入が一定せず、予算を立てて計画的な財政支出をおこなうことができなかつた。そこで、1873年(明治6年)に地租改正を行い、1)土地の所有者と地価を定めて土地の所有者に地券を与え、2)課税の基準を収穫高から地価に変更し、3)税率を地価の3%として所有者に現金で納めさせるように改正を行った。

[地租改正]

地券を交付
地価の3%を現金で
(後に2.5%)

(いやな山村(1873)地租改正) 課税の基準を収穫高から地価に

(地券)

此百分ノ三金 明治十年ヨリ 地券ノ額半金 壹円八錢四厘 地租	地價四拾三圓三拾六錢六厘	持主 同國同郡同村 佐藤文吉	一田壹反廿三步	越後國中頸城郡岩手村 九番字鬼谷	地券
--	--------------	----------------------	---------	---------------------	----

変更することで、豊作不作にかかわらず、また、米の値段の高低にかかわらず、一定の税収を確保することができるようになり、政府の収入は安定した。しかし、地租は全体で江戸時代の年貢の総量と同じになるように計算されていたので農民の負担は軽くはならなかつた(富国強兵を進めるためには、歳入を削る余裕などなかつた)。そのため、地租改正反対一揆がおり、1877年に地租は地価の3%から2.5%に引き下げられた。

[解答 22]① 地券 ② 3

[解答 23]エ, オ

[解答 24]ウ

[解答 25]イ

[解説]

地租改正によって課税の基準が地価となったことから, 正解はアと判断できる。

[解答 26]ウ

[解説]

16 銭 3 厘=0.163 円, 6 円 53 銭 6 厘=6.536 円 $0.163(\text{円})\div 6.536 = \text{約 } 0.025 = 2.5(\%)$

明治 10 年(1877 年), 地租を地価の 3%から 2.5%に引き下げたが, この地券の日付は明治 16 年になっているので, 税率は 2.5%

[解答 27](課税の基準は)収穫高から地価に変更され (納めるものは)収穫物(米)から現金に変更された。

[解答 28]国家の財政を安定させるために, 税として納めるものを米から現金に変えた。

[解答 29]政府の急激な改革に対し, 各地で士族の反乱や地租改正反対の農民一揆がおこった。

[解答 30]イ

[解説]

国家総動員法は日中戦争が長引き軍事費が増大していた 1938 年に公布された。

【】 文明開化

[文明開化]

[解答 31]文明開化

[解説]

近代化をめざす政策により, 欧米の文化がさかんに取り入れられ, 伝統的な生活が変化し始めたが, これを文明開化と呼ぶ。都市では欧米風の建物が増え, 道路には人力車や馬車が走り, ランプやガス灯がつけられた。また, 洋服やコート, 帽子が流行し, 牛肉を食べるなど食生活の変化も始まった。暦も太陽暦が採用された。

[[文明開化]]

人力車, 鉄道, ガス灯
洋服, 太陽暦

[解答 32]エ

[解説]

エは江戸時代の朝鮮の通信使。

[解答 33]イ

[解説]

イが誤り。ラジオ放送が始まったのは大正時代である。

[解答 34]① 横浜 ② エ

[解説]

経済の発展に欠かせない交通の整備が進められた。1872年(明治5年)に新橋・横浜間に最初の鉄道が開通した。横浜は、当時、日本最大の貿易港であった。

[新しい思想]

[解答 35]福沢諭吉

[解説]

欧米の近代思想も次々に紹介され、人間の平等と民主主義がわかりやすい形で説かれた。「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず」という言葉で有名な「学問のすゝめ」



福沢諭吉

中江兆民

[新しい思想]

福沢諭吉:学問のすゝめ

「天は人の上に人をつくらず…」

中江兆民:ルソーの思想を紹介

を書いたのは福沢諭吉である。また、中江兆民はルソーの思想を紹介した。これらの思想は青年たちに大きな影響を与え、やがて自由民権運動へとつながっていった。

[解答 36]文明開化

[解答 37]中江兆民

[解答 38]ルソー

【】岩倉使節団と殖産興業

[岩倉使節団]

[解答 39]岩倉使節団

[解説]

政府は、廃藩置県を断行した直後の1871年(明治4年)、岩倉具視を全権大使とする使節団を欧米に送った。この岩倉使節団は、大久保利通、木戸孝允、伊藤博文など政府の主要メンバーの半数が、約2年間にわたって参加した大規模なものであった(維新の最大の功労者である西郷隆盛は日本に残り、留守政府をあずかった)。岩倉使節団の目的は、1)欧米の進んだ政治、産業、社会を視察すること、2)不平等条約改正のきっかけをつかむことであった。



[岩倉使節団]

欧米の視察
不平等条約の改正

岩倉具視
(全権大使)

大久保利通

条約改正はできなかったが、国力の充実が必要であると痛感して帰国した使節団は、この経験をもとに日本の近代化をすすめていった。とくに、薩摩藩出身の大久保利通は、帰国後参議兼内務卿として殖産興業などを進めた。使節団には、数多くの留学生も同行したが、その中には、津田梅子など5人の女子留学生も含まれていた。津田梅子は女子留学生の中の最年少で、のちに女子英学塾をつくり、女子教育の発展につくした。

[解答 40]岩倉具視

[解答 41]A 岩倉具視 B 伊藤博文

[解答 42]不平等条約を改正すること

[解答 43]日本に関税自主権がなかったこと。

[解説]

1858年に幕府が結んだ日米修好通商条約などの通商条約は、治外法権を認め、関税自主権のない不平等な条約であった。

[解答 44](1) 日米修好通商条約 (2) 欧米の政治や産業を視察すること。

[解答 45]イギリス

[解答 46]岩倉使節団

[解答 47]津田梅子

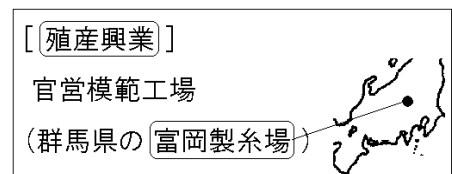
[解答 48]西郷隆盛

[殖産興業]

[解答 49]殖産興業

[解説]

政府は、近代的な産業を育てることで「富国」を実現するため、殖産興業を進めた。日本の輸出を支える生糸の増産や品質の向上を図るため、群馬県の富岡製糸場などの官営模範工場をつくった(富岡製糸場は



2014年に世界遺産に指定された)。渋沢栄一は富岡製糸場の建設をはじめ、多くの企業を設立し、経済の発展につくした。

経済の発展に欠かせない交通・通信部門の整備も進められた。

1872年には新橋・横浜間に陸蒸気と呼ばれる鉄道が走り、また、飛脚にかわる近代的な郵便制度が整えられた。



さらに、輸出を増やし技術を導入するため、欧米でさかんに開かれた万国博覧会にも参加した。そこに出品された日本の美術品や工芸品への興味から、欧米では日本に対する関心が急速に高まった。例えば、ゴッホは歌川広重の浮世絵をまねた油絵をえがいた。こうした動きをジャポニスムという。

[解答 50]殖産興業

[解答 51]富岡

[解答 52]生糸

[解答 53]ア

[解答 54]官営模範工場

[解答 55]官営模範工場をつくるなどして近代産業の育成をめざした。

[解答 56]製糸業(紡績業)

[解説]

日本では日清戦争前後に蒸気動力化による製糸・紡績など軽工業部門を中心に第一次産業革命、日露戦争前後に電力による重工業部門中心の第二次産業革命が進行した。

[解答 57]生糸

[解答 58]ウ

[解答 59]① 市民 ② 政府

[北海道の開拓]

[解答 60]開拓使

[解説]

江戸時代までの蝦夷地はアイヌの人々が住んでいたが、日本の勢力は、松前藩が南の一部の地域(函館の西)を支配しているのみであった。政府は蝦夷地を北海道と改め、開拓使という役所を置いて、統治を強化するとともに、農地の開墾、鉄道や道路の建設など、欧米の技術を取り入れた開拓事業を進

[北海道の開拓]
開拓使
屯田兵(北方の防備と開拓)
アイヌに対する同化政策

めた。開拓の中心となったのは、各地から移住してきた農業兼業の兵士である屯田兵などであったが、労働力の不足を補うため、囚人やアイヌの人々も集められた。これらの人々は、道路工事などの困難な労働の中で、多くの犠牲者を出した。さらに、開拓が進むにつれて、先住民であるアイヌの人々は土地や漁場をうばわれただけでなく、アイヌ民族の伝統的な風習などを禁止する同化政策がとられたことなどから、民族固有の生活や文化を維持していくことが困難になっていった。

※この時代、ロシアは南下政策をとっていた。国際法では、どこの国の支配もおよんでいない土地は、先にその地域を支配した国の領土になる慣習であったので、ロシアとの国際関係のうえからも、蝦夷地の開拓は、政府にとって重要な課題であった。

[解答 61]屯田兵

【】 近代的な国際関係

[日清修好条規]

[解答 62] 日清修好条規

[解説]

1871年(明治4年)、清との間で対等な立場で日清修好条規を結んだ。

[日清修好条規]
1871年(明治4年)
清と対等な条約を結ぶ

[琉球処分]

[解答 63] 清

[解説]

江戸時代、琉球王国は薩摩藩の支配下におかれていたが、中国(清)にも朝貢しており、形式上は日本と中国の両方に属する形であった(薩摩藩は琉球の清への朝貢貿易の実利からこれを認めていた)。

[琉球処分]
1872年 琉球藩を設置
1874年 台湾に出兵
1879年 沖縄県を設置 **琉球処分**

日本は、1872年(明治5年)に琉球藩において日本の領土であるとした。しかし、宗主権を主張する清はこれに抗議した。その前年に台湾で琉球漂流民の殺害事件が起こっていたが、日本は1874年(明治7年)に台湾に出兵を行った。日本は清に対して強硬な立場をとり、日本の出兵が正当なことを認めさせ、賠償金を支払わせた。(これによって、事実上、清は琉球漂流民が日本の国民であることを認め、琉球が日本の領土の一部であることを認めたことになる。)

日本政府は、1879年(明治12年)に琉球藩を廃止して沖縄県を設置した。これを琉球処分という。清は、これに異議を唱え、その後も日清の間で紛糾が続いたが、日清戦争における日本の勝利によって、琉球帰属問題は事実上、日本の主張通りに解決した。

[解答 64] イ

[日朝修好条規]

[解答 65] 江華島事件

[解説]

1875年、日本は軍艦を朝鮮に派遣し、沿岸を無断で測量して朝鮮側を挑発し、砲撃を受けるとこれを占領した。この江華島事件をきっかけに、軍事力を背景にして領事裁判権などをふくむ不平等な日朝修好条規を朝鮮に認めさせた。

[江華島事件・日朝修好条規]
1875年 **江華島事件**
1876年 **日朝修好条規**

[解答 66] ① 江華島 ② 日朝修好

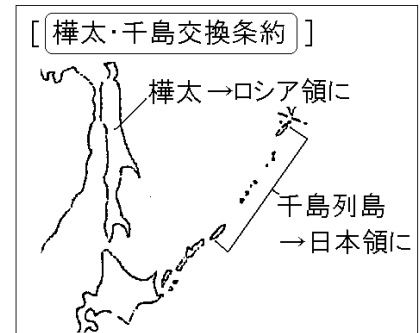
[解答 67] b

[樺太・千島交換条約]

[解答 68]樺太・千島交換条約

[解説]

1875年(明治8年), ロシアとの間で, 日本が千島列島のすべてを領有するかわりに, ロシアに樺太の領有を認めるという樺太・千島交換条約を結んだ。太平洋地域では, いくつかの国が小笠原諸島の領有権を主張していたが, 1876年に日本の領有が決定した。



[解答 69]B

【】自由民権運動・国会開設

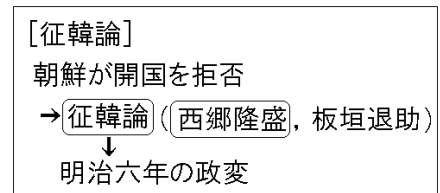
【】自由民権運動・士族の反乱

[征韓論]

[解答 70]征韓論

[解説]

1871年(明治4年), 清との間で対等な立場で日清修好条規を結んだ。政府は朝鮮に対しても国交を開くことを求めていたが, 鎖国政策をとっていた朝鮮はこれを拒否した。さらに, 日本公館への食糧供給も拒んで国外退去を求めた。



これに対し, 政府内には武力で朝鮮を開国させようという征韓論が起こった。征韓論の中心になったのは岩倉使節団が外遊している間の留守政府の中心であった西郷隆盛や板垣退助である。征韓論は士族たちの不満を外に向けるねらいもあった。しかし, 征韓論は, 欧米視察から帰ったばかりの大久保利通らの反対によって否定され, 西郷や板垣は政府から去った。これを明治六年の政変という。

[解答 71]X 大久保利通 Y 西郷隆盛 Z 板垣退助

[解答 72]大久保利通

[解答 73]板垣退助は自由民権運動を始め, 西郷隆盛は西南戦争をおこした。

[解答 74]エ

[自由民権運動の始まり]

[解答 75]自由民権運動

[解説]

明治六年の政変ののち、政府の中心となった大久保利通は、新たに内務省を設置して内務卿(のちの大臣)となり、殖産興業をはじめとする近代化政策をおし進めた。

征韓論の議論に敗れて政府を去った板垣退助は、

これを専制政治であるとして批判した。板垣退助は、1874年(明治7年)に民撰議院設立の建白書を提出したが、その中で、「政権は天皇にも人民にもなく、有司(役人)ににぎられている。その有司はかつてに法律をつくり、自由を圧迫している。こういう有司の専制が続く限り、国家はくずれてしまうであらう。…それを改める方法は、民撰議院を設立することである。…」と述べている。さらに、高知に帰った板垣は立志社をつくって自由民権運動を始めた。(一派なし(1874)で建白書)

[自由民権運動の始まり]

1873年 板垣退助, 征韓論→政変で下野

1874年 民撰議院設立の建白書

高知県で立志社をつくり, 自由民権運動



板垣退助



大久保利通

[解答 76]板垣退助

[解答 77]① 立志社 ② 自由党

[解答 78]政府の政治を専制政治であると批判し、議会を開いて国民が政治に参加できるようにすべきだと主張した。

[士族の反乱]

[解答 79]西南戦争

[解説]

藩閥政治に対する士族の不满は、一方では自由民権運動を生んだが、他方では佐賀の乱(1874年)、萩の乱(1876年)などの不平士族の反乱をもたらした。その最大のものは、征韓論に敗れて鹿児島に帰った西郷隆盛が中心になって起こした1877年(明治10年)の西南戦争である。(西南戦争討伐なかなか(1877)難しい)

士族からなる西郷軍は、戊辰戦争の経験者も多く、徴兵された農民が中心の政府軍を見下していたが、政府軍の近代的装備の前に敗れ、西郷隆盛は自害した。西南戦争による政府軍の勝利は、武力によって政府を倒すことは不可能であることを実証したものであり、これを最後に士族の反乱はおさまった。

[西南戦争]

西郷隆盛 士族の不满



鹿児島



西郷隆盛

[解答 80]西郷隆盛

[解答 81]士族

[解答 82]身分的な特権をうばわれたことへの不満をもっていた。

[解答 83]e

[解説]

士族の反乱の中で最大のものは西南戦争である。

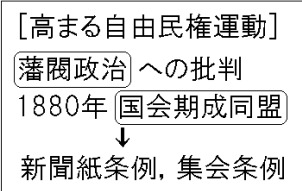
[解答 84]① 自由民権 ② 西南戦争

[高まる自由民権運動]

[解答 85]国会期成

[解説]

1877年(明治10年)の西南戦争ののち、旧薩摩、長州藩出身者などによる藩閥政治への批判は言論による自由民権運動が中心になった。1880年(明治13年)には、全国の代表者が大阪に集まって国会期成同盟を結成し、国会の開設を求めた。国会期成同盟には商工業者や豪農(地主)なども参加した。運動は、国会において自分たちの憲法を制定しようとする方向へと進み、多くの憲法草案が民間で作成された。植木枝盛の「東洋大日本国国憲按」はその1つである。自由民権運動の高まりに対して、政府は新聞紙条例や集会条例を出してこれを弾圧した。



[解答 86]政府への武力による抵抗にかわり、言論による批判が中心となり

[解答 87]ウ

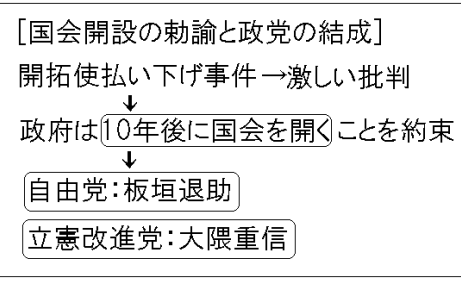
[解答 88](1) 国会開設 (2) 自由民権運動

[国会開設の勅諭と政党の結成]

[解答 89]エ

[解説]

自由民権運動の高まりに対して、政府部内でも、欧米列強にならった強国をつくっていくためには、憲法と議会をもつ立憲政治をおこなって、国を自主的に支えようとする国民の意識を育てていくことが必要だという考えがあった。ただ、その実施時期・方法については対立があり、国会の即時開設を主張する大隈重信と、時間をかけるべきだとする伊藤博文らが対立した。



1881年(明治14年)、北海道開発のために多額の国費をか



伊藤博文



大隈重信

けてつくった開拓使の施設を薩摩出身の商人に不当に安い値段で売ろうとしたことが国民に知れて、藩閥政府を攻撃する声が、いっそうはげしくなった。政府がたおれることを心配した伊藤博文などは、払い下げを中止し、10年後に国会を開くことを約束した(国会開設の勅諭)。同時に、大隈重信が民権派に情報を流した張本人とみて、大隈を政府から追い出した。国会開設にそなえ、板垣退助は自由党を結成し、大隈重信は立憲改進黨を結成した。

[解答 90]自由党

[解答 91]大隈重信

[解答 92]立憲改進黨

[解答 93]秩父

[解答 94]エ→イ→ア→ウ

[解説]

エ:1874年民権議院設立の建白書→(西葡戦争)→イ:1880年国禁断成同盟→(国会開設の勅諭)→ア:1881年自由党結成→ウ:1884年秩父事件

[解答 95]ア

【】立憲制国家の成立

[憲法の準備]

[解答 96]伊藤博文

[解説]

国会開設にそなえて、伊藤博文は自らヨーロッパに留学して、ドイツ(プロイセン)をはじめ各地で憲法について学び、帰国後は自らが中心となって憲法の草案を作成した。伊藤博文は、ドイツの憲法を手本にしたが、その理由は、

ドイツの憲法は君主権の強い憲法で、わが国の実情にあったからである。(大日本帝国憲法は「大日本帝国ハ万世一系ノ天皇之ヲ統治ス」と天皇主権を定めている。)

憲法草案を審議するために、枢密院という天皇の相談にこたえる機関が設けられた。

[憲法の準備]

伊藤博文 ヨーロッパに留学

君主権の強いドイツ憲法を手本



(伊藤博文)

[解答 97]ドイツ(プロイセン)

[解答 98]ドイツ憲法は君主権が強い憲法であったため。

[解答 99]イ

[内閣制度]

[解答 100]伊藤博文

[解説]

1885年(明治18年)、それまでの太政官制にかわって、内閣制度がつくられた。初代の内閣総理大臣には伊藤博文が任命された。

[内閣制度] 1885年
初代の内閣総理大臣は
伊藤博文

[大日本帝国憲法の発布]

[解答 101]大日本帝国

[解説]

1889年(明治22年)2月11日に、天皇が国民に与えるという形で大日本帝国憲法が発布された。

大日本帝国憲法は、第1条に「大日本帝国ハ万世一系ノ天皇之ヲ統治ス」とあるように、天皇を主権者と定めた。国民の権利については「法律ノ範囲内」という制限はあったが憲法で保障された。

また、天皇と行政府の権限がきわめて強いものであったが、議会は、予算案・法律案の審議を通じて国政に参与する道が開かれた。さらに、大日本帝国憲法が発布された翌年の1890年、教育勅語が出されて、忠君愛国の道徳が示され、教育の柱とされるとともに、国民の精神的、道徳的なよりどころとされた。なお、大日本帝国憲法が発布された2月11日は「建国記念の日」になっている。

[大日本帝国憲法]

1889年2月11日 発布
主権者: 天皇 「大日本帝国ハ
万世一系ノ(天皇)之ヲ統治ス」
国民の権利: 「法律ノ範囲内」
1890年 教育勅語

[解答 102]天皇

[解答 103]大日本帝国憲法は天皇を主権者としているのに対し、日本国憲法は国民を主権者としている。

[解答 104]イ

[解答 105]エ

[解説]

エが誤り。帝国議会は貴族院と衆議院から成り立っていた。

[解答 106]ウ

[解説]

アは誤り。衆議院議員の選挙権は直接国税15円以上をおさめる25歳以上の男子に与えられた。イは誤り。「参議院と衆議院」ではなく「貴族院と衆議院」。ウは正しい。

エは誤り。天皇が主権者とされていた。

[解答 107](1) 天皇 (2) ウ

[解答 108]法律の範囲内で認められていた。

[解答 109]b

[解答 110]イ

[解説]

憲法発布の翌年には教育勅語が出されて、忠君愛国の道徳が示され、教育の柱とされるとともに、国民の精神的、道徳的なよりどころとされた。

[帝国議会の開設]

[解答 111]貴族院

[解説]

1890年に第一回帝国議会が開かれた。帝国議会は、国民の選挙で選ばれた議員で構成される衆議院と、皇族・華族や、天皇が任命した者で構成される貴族院の2つの議院から成り立っていた。

[帝国議会]

[衆議院]と[貴族院]

[解答 112]イ，ウ

[解答 113]憲法を制定し，議会を開いたこと。

[解答 114]立憲政友会

[選挙資格]

[解答 115]エ

[解説]

衆議院議員の選挙権は、直接国税を15円以上納める満25歳以上の男子に限られた。それは当時の全人口の約1.1%にすぎなかった。

[衆議院議員の選挙権]

直接国税15円以上を納める

満25歳以上の男子

総人口の1.1%

[解答 116]直接国税 15 円以上を納める満 25 歳以上の男子

[解答 117]1.1%

[解答 118]ア，衆議院

【】日清戦争・日露戦争

【】条約改正

[岩倉使節団～欧化政策]

[解答 119]① 鹿鳴館 ② 欧化

[解説]

岩倉具視を全権大使とする岩倉使節団は、幕末に欧米諸国と結んだ不平等条約改正の交渉を試みたが、日本に近代的な法制度がととのっていないことを理

[岩倉使節団～欧化政策]

1871年 岩倉使節団

1878年 アメリカが応じるも実現せず

1880年代 井上馨の欧化政策(鹿鳴館)

由に不成功に終わった。

その後、条約改正にいち早く応じたのはアメリカで、1878年(明治11年)に関税自主権の回復に合意したが、イギリスなどの賛成が得られず実現しなかった。

外務大臣井上馨は、鹿鳴館を建てて外国人をまねき舞踏会を開くなど欧化政策をとり条約改正をめざした。井上は、領事裁判権に関して外国人を裁判官に採用して条約改正の糸口にしようとしたが、その交渉の内容が知られると、国内から激しい反対を受けたため、交渉は失敗に終わった。



(鹿鳴館での舞踏会)

[解答 120]不平等条約の改正を実現すること。

[ノルマントン号事件]

[解答 121]ノルマントン号事件

[解説]

1886年(明治19年)にイギリス船ノルマントン号が和歌山県沖で沈没し、日本人乗客全員が水死する事件が起きた。しかし、イギリスの領事裁判所は、イギリス人船長に軽い罰をあたえただけだったため、不平等条約(とくに領事裁判権)の改正を求める世論が高まった。

[ノルマントン号事件]

↓
領事裁判権の改正を求める世論

[解答 122]領事裁判権を認めていた。

[解答 123]日本国内で外国人が法を犯したときに、その国の領事が裁判を行う治外法権を撤廃すること。

[領事裁判権の撤廃]

[解答 124]日英通商航海条約

[解説]

日清戦争直前の1894年(明治27年)、外務大臣の陸奥宗光はイギリスと交渉して、日英通商航海条約を結び、領事裁判権の撤廃と関税自主権の一部の回復に成功した。この時期にイギリスが条約改正に応じたのは、ロシアの東アジアへの進出に対抗するため日本と手を結ぶ政策をとるようになったからである。それと、憲法が制定され、法制度がととのって、近代的な法治国家と認められたことも条約改正に有利に働いた。

[領事裁判権の撤廃]

1894年
日英通商航海条約
外相は 陸奥宗光

[解答 125]ウ

[解答 126] ロシア

[解答 127] ① ロシア ② 関税自主権

[解答 128] ① 清 ② 領事裁判権

[解答 129] ロシアの南下に対抗するためには日本に接近するのが得策と考えたから。

[解答 130] 領事裁判権が撤廃された。

[関税自主権の回復]

[解答 131] 関税自主権

[解説]

関税自主権の完全な回復は、日露戦争後の 1911 年(明治 44 年)であった。そのときの外務大臣は小村寿太郎であった。

(自主権回復ひどくいい(1911))

[関税自主権の回復] 1911年 外相は小村寿太郎

[解答 132](1) 関税 (2) Q

[解説]

関税自主権の回復と領事裁判権の撤廃を主な内容とする不平等条約改正を実現できたのは、日露戦争後の 1911 年であった。

[解答 133] ウ→ア→エ→イ

[解答 134] ウ

[解説]

陸奥宗光は日清戦争前後の時期の外務大臣で治外法権の撤廃に成功した。小村寿太郎は日露戦争前後の時期の外務大臣で関税自主権の撤廃に成功した。

[解答 135] イ

[解答 136] ア

[解説]

条約改正の完成は明治末である。アは大正時代のできごとなので条約改正とは関係がない。

【】日清戦争と三国干渉

[朝鮮をめぐる情勢]

[解答 137](1) 日清戦争 (2) a 日本 b ロシア c 清

[解説]

朝鮮では、日本と清が勢力争いをくりひろげていた。朝鮮国内では、明治維新にならって近代化をはかろうとする親日派と、清との関係を維持しようとする親中派とが、激しく対立していた。

当時、ロシアが南下政策をとりつつあり、朝鮮がロシアの手に落ちれば、やがて、日本そのものが危うくなるという危機感があった。朝鮮における清との対立が深まる中、日本は軍備の増強をはかった。図は日清戦争前の風刺画である。aが日本、cが清で、水の中の魚dは朝鮮である。



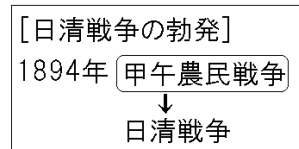
日清戦争が朝鮮をめぐる日本と清の争いであったことを表している。橋の上から漁夫の利を得よう(朝鮮を横取りしよう)と機会をうかがっているbはロシアである。

[甲午農民戦争→日清戦争]

[解答 138]甲午農民戦争

[解説]

朝鮮では日本と清が勢力争いをしていた。1894年(明治27年)に朝鮮国内で、東学という民間宗教を信仰する農民などが、外国人排斥や政治改革をめざして反乱を起こした。これを甲午農民戦争という。朝鮮政府は、この農民の反乱をおさえるために清に出兵を求めた。これに対抗すべく、日本も出兵し、日清戦争が始まった。(一発急襲(1894)日清戦争)



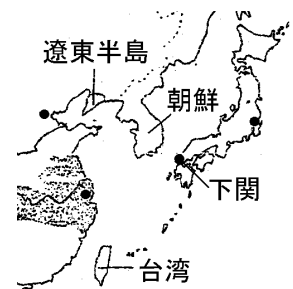
[解答 139]① 清 ② 甲午農民戦争 ③ 日清

[下関条約]

[解答 140]下関条約

[解説]

日清戦争は日本の勝利に終わり、翌1895年、下関条約が結ばれた。この条約で清は、① 朝鮮の独立を認め、② 遼東半島、台湾などを日本に譲る、③ 賠償金3億円を日本に支払うこと、などを認めた。



[解答 141]エ

[解答 142]ア, エ

[解答 143]エ

[解説]

わが国は下関条約によって台湾と遼東半島を獲得したが、三国干渉により遼東半島は清に返還した。

[解答 144]① 日清 ② イギリス

[三国干渉]

[解答 145]三国干渉

[解説]

満州への進出をねらっていたロシアは、ドイツとフランスをさそって、1895年(明治28年)、日本に対して遼東半島を清に返還するように要求してきた。これを三国干渉



[三国干渉]

ロシア, ドイツ, フランス

遼東半島を返還

という。当時、日本はロシアなどと戦う力はなかったため、この圧力に屈して賠償金と引きかえに遼東半島を清に返還した。その後、ロシアはこの遼東半島の旅順と大連を清から租借した。

[解答 146]ロシア, フランス, ドイツ

[解答 147]遼東半島, B

[解答 148]B

[解答 149]ロシアが中心となって、遼東半島の返還を求める三国干渉を行ったため。

[解答 150]下関条約で獲得した遼東半島を三国干渉で返還させられたから。

[解答 151]三国干渉を受け入れた日本が、その返還勧告で中心的役割をはたしたロシアに対抗できる軍事力をもつため。

[解説]

日本は清には勝利したものの、まだ欧米列強には及ばず、国際的圧力をはね返すだけの軍事力をもつ必要があった。

【】 日露戦争

[義和団事件]

[解答 152] 義和団事件

[解説]

列強の中国侵略に反発して中国国内では、1899年(明治32年)に「扶清滅洋」を唱えた義和団が蜂起し、1900年に北京の各国の公使館を包囲する義和団事件が起こった。これに対し、日本を主

力とする8か国の約7万人の連合軍が派遣されてようやくこれを鎮圧した。義和団事件後、ロシアは満州に大軍をとどめて事実上ここを占領し、さらに韓国への進出を強めた。

[義和団事件]
「扶清滅洋」、北京
↓
ロシアは大軍を満州に



[解答 153] エ

[解答 154] 列強の中国分割に反発する排外運動がさかんになったため。

[解答 155] 欧米列強や日本が、中国を侵略しているようすを表している。

[日英同盟]

[解答 156] 日英同盟

[解説]

義和団事件後、ロシアは満州に大軍をとどめて事実上ここを占領し、さらに韓国への進出を強めた。当時の日本政府は、朝鮮半島がロシアの支配下に入ってしまうと、次は日本自体が危うくなるという危機感を持っていた。

[日英同盟]
1900年 義和団事件
1902年 日英同盟
1904年 日露戦争

また、ロシアの清への進出は、イギリスが清にもつ權益も危うくするものであったので、イギリスは日本へ接近し、同盟の締結をもちかけた。政府部内では、強大なロシアと戦火を交えることは避けたいと満韓交換(満州はロシア、韓国は日本)でロシアとの妥協をはかりたいとする伊藤博文などの考えもあったが、軍事力に自信を持つロシアはこれに応じる様子はない。そこで、政府はイギリスと手を結んでロシアの動きに対抗することを決し、1902年(明治35年)に日英同盟が締結された。

[解答 157] ロシア

[解答 158] イギリス

[解答 159] イギリス

[解答 160] イギリス

[解答 161]イギリスと日英同盟を結んだ。

[解説]

図は日露戦争の風刺画である。ロシアに日本が立ち向かい、イギリスが日本を後押ししている様子が描かれている。イギリスは中国の長江流域を勢力範囲にしていたが、満州をおさえ、さらに南下しようとしていたロシアに対抗するため、日本と1902年に日英同盟を結んだ。

[解答 162]ロシアと日本は韓国の支配をめぐって対立していた。イギリスはロシアの南下に対抗するため日本と日英同盟を結んだ。

[解答 163]X ロシア Y フランス Z イギリス

[解答 164]イ→ア→ウ

[日露戦争]

[解答 165]日露戦争

[解説]

1904年、日本とロシアの間で日露戦争が始まった。「あゝをとるとよ君を泣く 君死にたまふことなかれ・・・」という詩をよんだ与謝野晶子、

キリスト教徒の内村鑑三、社会主義者の幸徳秋水などは戦争に反対の声をあげたが、当時の新聞などは威勢のいい主戦論を書き立てていた。政府は巨大な軍事力をもつロシアと戦うことには慎重で、何度もロシアと交渉を重ねた。しかし、ロシアとの間に妥協は成立せず、こうして、1904年(明治37年)に日露戦争が始まった。(引くをよし(1904)て開戦決定日露戦争) 日本軍は苦戦を重ねつつも戦局を有利にすすめ、日本海海戦でも勝利をおさめた。しかし、日本の戦力は限界に達し、ロシアでも革命が起こるなど、両国とも戦争の継続が困難になった。

[日露戦争]

1904年 日露戦争

与謝野晶子、幸徳秋水、内村鑑三
日本海海戦などで勝利 らの反対

[解答 166]与謝野晶子

[解答 167]内村鑑三

[ポーツマス条約]

[解答 168]ポーツマス条約

[解説]

1905年(明治38年)、アメリカの仲介によってアメリカの都市ポーツマスで講和会議が開かれ、ポーツマス条約が結ばれた。この条約で、ロシアは、1) 韓国における日本の優越権を認める、2) 旅順・大連の租借権、長春以南の鉄道の利権を日本に譲る、3) 北緯50度以南の樺太を日本に譲る、4) 沿海州、カムチャツカ半島沿岸の日本の漁業権を認める、ことを決めた。

[ポーツマス条約]

アメリカの仲介、小村寿太郎
・朝鮮での日本の優越権
・旅順・大連、鉄道の租借権
・南樺太の譲渡、漁業権
・賠償金はとれず

日比谷焼き打ち事件

このときの日本の全権は外務大臣の小村寿太郎であった。しかし、賠償金を得ることはできなかった。戦争による犠牲の大きさに比べて賠償金を取れなかったことなど、日本の得た權益が少なかったとして国民の不満が高まり、各地で講和反対集会が開かれ、東京では、日比谷焼き打ち事件が起こった。

日本とロシアは、1907年(明治40年)には満州での両国の勢力範囲を決め、日露協約を結んで協力し合うようになった。

[解答 169]アメリカ

[解答 170]ア

[解説]

満州において南満州鉄道を建設した。

[解答 171]イ

[解答 172]ウ

[解答 173]賠償金

[解答 174]日比谷焼き打ち事件

[解答 175]日露戦争の講和条約であるポーツマス条約で、ロシアから賠償金を得ることができなかったため。

[解答 176]イ

[解説]

イは日清戦争の講和条約のことを説明している。

【】 韓国と中国

[韓国併合]

[解答 177]韓国

[解説]

日本は、日露戦争後、韓国統監府を置いて朝鮮の植民地化を進めた。初代の韓国統監になった伊藤博文が、朝鮮人青年の安重根にハルビン駅で暗殺された事件の後、1910年(明治43年)に韓国併合を行った。(幾十(1910)年韓国泣かせた韓国併合)

[韓国併合]

1909年 伊藤博文暗殺(安重根)

1910年 韓国併合

朝鮮総督府 同化政策

韓国併合について、石川啄木は「地図の上朝鮮国に黒々と墨を塗りつつ秋風を聴く」という歌をうたった。日本は、朝鮮総督府を設置して、武力を背景にした朝鮮支配をおしすすめ、首都の漢城(ソウル)も京城と改称させた。朝鮮の学校では朝鮮史を教えることを禁じ、日本史や日本語を教えて、日本人に同化させる教育をおこなった。また、土地の調査を進め、所有権が明確でない土地を取り上げた。植民地支配は1945(昭和20)年の日本の敗戦まで続いた。

[解答 178]ア

[解説]

アが誤り。初代の韓国統監は伊藤博文である。

[解答 179]ア

[辛亥革命と中華民国の成立]

[解答 180]孫文

[解説]

中国では帝国主義列強の圧迫に対抗する動きが強まり、清を倒して民族の独立と近代国家建設をめざす運動が起こった。その中心となったのは、三民主義(民族主義・民権主義・民生主義)を唱える孫文であった。

[孫文の三民主義]
(民族・民権・民生)

1911年(明治44年)、長江上流域で起きた民衆の反政府運動に応じて、武昌(武漢)で軍隊が反乱を起こすと、革命運動は全国に広がり、多くの省が清からの独立を宣言した。翌年、各省の代表者から支持されて孫文が臨時

[辛亥革命と中華民国の成立]

1911年 中国で辛亥革命

1912年 中華民国 孫文→袁世凱
清が滅ぶ

大総統となり、南京を首都とする、アジアで最初の共和国である中華民国が建国された。これを辛亥革命という。(辛亥の三民主義は一句いい(1911)) 清の実力者であった袁世凱は孫文と手を結び、清の皇帝を退位させたため、清はほろびた。その後、袁世凱は、孫文から大総統の地位をゆずり受け、首都を北京に移し、革命勢力をおさえて独裁的な政治を行った。しかし袁世凱の死後、中国は各地に勢力を持つ軍閥によって、ばらばらに支配された。

[解答 181]① 辛亥革命 ② 中華民国

[解答 182]① 孫文 ② 韓国

[解答 183]イギリスの植民地であった。

【】産業・文化

【】日本の産業革命

[紡績・製糸業の発達]

[解答 184]産業革命

[解説]

1880年代の中ごろから、紡績業や製糸業などの軽工業を中心として産業革命が起こった。

紡績業の発展によって日本は綿糸を自給できるようになり、日清戦争後には中国への輸出も増加した。また、

生糸をつくる製糸業はおもにアメリカ向けの輸出産業として発展した。

[1880年代中ごろから産業革命]

紡績業:綿糸を自給→中国へ輸出
製糸業:生糸をアメリカへ輸出

[解答 185](1) 生糸 (2) 1885 年には綿糸を輸入していたが、1899 年には綿花を輸入し、綿糸を輸出していることから、紡績業が発達したことがわかる。

[解説]

(1) 幕末以来、生糸は最大の輸出品であった。明治初期に管営模範工場として建設された管営製糸場は、外国の機械を導入した生糸の生産工場であった。その後、輸入機械にまなんで在来技術を改良した器械製糸による小工場が、長野・山梨県などの養蚕地帯にぞくぞくと生まれ、日露戦争後には、アメリカむけを中心にさらに生糸輸出が伸び、明治末ごろには輸出規模は世界最大になった。

(2) グラフで注目すべきは綿糸である。1885 年には最大の輸入品であったが、1899 年には A の生糸につぐ輸出品になっている点に注目すべきである。幕末以来の綿製品の輸入に圧迫されて、綿織物業は一時おとろえたが、原料糸に輸入綿糸を用いて農村での問屋制家内工業を中心に生産はしだいに回復していた。このような中で、輸入した紡績機械を用いた大規模な綿糸の生産工場が次々につくられ、やがて国産の綿糸が輸入品を追い出し、さらに、生糸につぐ輸出品になった。綿糸の原料である綿花はおもに輸入にたよったので、綿花は最大の輸入品となった。

[解答 186](1) 生糸 (2) 輸入した綿花を原料として、工場で綿糸を大量生産できるようになったから。

[解答 187]産業革命の進行により、綿糸の生産量が伸びて、輸出量が輸入量を上回るようになった。

[解答 188]繊維

[解答 189]休憩時間が短く、労働時間が長すぎること。

[解説]

女子工員たちの労働時間は非常に長く、しかも低賃金であった。

[八幡製鉄所など]

[解答 190]八幡製鉄所

[解説]

日清戦争後の 1901 年(明治 34 年)、清国からの賠償金をもとに、官営の八幡製鉄所(福岡県)が建設された。製鉄所の建設は重工業発展の基礎となり、また、軍備拡張のために必要であった。その後、鉄鋼、電気、造船などの重工業が発達した。

[八幡製鉄所]

1901年
日清戦争の賠償金

[解答 191]エ

[解答 192]石炭

[解答 193]ア、エ

[解答 194]ア

[解答 195]イ

[解答 196]C

[解答 197]① 軽工業 ② 重工業

[解説]

1880年代には政府が民間産業を育成する政策をとり、紡績・製糸などの軽工業が発展し日本も産業革命の時代を迎えた。重工業では、日清戦争後に、清からの賠償金をもとに、官営の八幡製鉄所が建設され、その後、鉄鋼、電気、造船などが発達した。

[解答 198]生糸に代表される軽工業が発達し、後に、重工業が発達した。

[解答 199]造船業

[財閥]

[解答 200]財閥

[解説]

産業の発展の中で三井、三菱、住友、安田などの大資本家は、金融・貿易・鉱山業などの多角経営を行って、日本経済を支配する財閥に成長していった。

[[財閥]]

三菱, 三井, 住友, 安田

[労働問題・公害]

[解答 201]田中正造

[解説]

労働者は長時間労働・低賃金に苦しんだ。そこで、労働者は団結して労働組合を結成し、資本家に待遇改善を要求する労働運動を行い、社会主義思想も広まり始めた。

1910年(明治43年)、天皇の暗殺を企てたとして、幸徳秋水などの多数の社会主義者が逮捕され、12名が死刑に処せられる大逆事件が起きた。

政府は、集会、結社の自由を制限する一方、日露戦争後に、12歳未満の就業禁止、労働時間の制限などを定めた工場法を制定した

また、鉱工業がさかんになると、排水や煙による被害も出るようになった。栃木県の足尾銅山では鉱毒が農産物などに被害を与える足尾銅山鉱毒事件が起これ、田中正造を中心にした公害反対運動が起こった。

[労働問題・公害]

労働者:低賃金・長時間労働

→労働運動

→社会主義 大逆事件(幸徳秋水)

足尾銅山鉱毒事件:田中正造

[解答 202]足尾銅山

[解答 203]ウ

[解答 204]ア

[解説]

イは第二次世界大戦後、ウは大正時代、エは第二次世界大戦中である。

[解答 205]大逆事件

【】 明治時代の文化

[美術・音楽]

[解答 206]フェノロサ

[解説]



黒田清輝
「読書」



黒田清輝
「湖畔」



横山大観
「無我」



狩野芳崖
「悲母観音像」



高村光雲
「老猿」



荻原守衛
「女」

(伝統美術)

岡倉天心：アメリカ人フェノロサとともに日本の伝統美術の復興に力を注いだ。

横山大観：日本画。「無我」。

狩野芳崖：日本画。「悲母観音像」。

高村光雲：日本の伝統的な彫刻にヨーロッパの写実的な技法を取り入れた。「老猿」。

(洋画など)

黒田清輝：フランスに留学。「読書」「湖畔」「舞妓」など印象派の明るい画風を紹介。
洋画の普及につとめた。

荻原守衛：洋風の近代彫刻。ロダンの弟子。「女」。

(音楽)

滝廉太郎：音楽の発展に貢献し、「荒城の月」「花」などをつくった。

[解答 207]黒田清輝

[解答 208](1) 黒田清輝 (2) 岡倉天心 (3) 滝廉太郎

[文学]

[解答 209]夏目漱石

[解説]



夏目漱石
「坊っちゃん」



森鷗外
「舞姫」



樋口一葉
「たけくらべ」



与謝野晶子
「みだれ髪」

夏目漱石：「坊っちゃん」「吾輩は猫である」「三四郎」。

森鷗外：「舞姫」：ドイツに留学して医学を学んだ。

樋口一葉：「たけくらべ」「にごりえ」。

与謝野晶子：「みだれ髪」「君死にたまふことなかれ・・・」。

石川啄木：社会を見つめ生活をうたった和歌を作った。「一握の砂」。

正岡子規：俳句の近代化につとめた。「ホトトギス」「歌よみに与ふる書」。

島崎藤村：「破戒」「若菜集」。

二葉亭四迷：「浮雲」言文一致。

[解答 210]二葉亭四迷

[解答 211]森鷗外

[解答 212]樋口一葉

[解答 213]A：イ， c B：ウ， a C：オ， e D：エ， b

[解答 214]イ

[医学・科学]

[解答 215]野口英世

[解説]

野口英世：黄熱病の研究を行った。研究中にガーナで死んだ。

北里柴三郎：破傷風の血清療法を発見した。

志賀潔：赤痢菌を発見した。

長岡半太郎：原子模型の研究を行った。

鈴木梅太郎：ビタミンB₁を創製した。

[解答 216]北里柴三郎

[解答 217]ウ

[解説]

ラジオ放送の開始は大正時代である。

【Fd 教材開発】 <http://www.fdtype.com/dat/>